

# シニアライフプロジェクト

## 第4回

### 「自分らしく生きる」高齢者をご紹介！

これから年齢を重ねていく区民の皆さんに、高齢になったときの生活をイメージしていただくと幸いです。誰もが自分らしく生活を送ることができる環境づくりを目指した、南区南部いきいき支援センターの取り組みです。



## スタッフとして・利用者としていきいきと

南区には NPO 法人愛知県断酒連合会が運営する愛知県断酒会館がある。

片山九州男<sup>くすお</sup>さん（70代）は家具屋で働いていた。男社会で仕事にお酒はつきものだったとのこと。家のこと、仕事のことなどつらいことが重なり酒量は増えていき、依存症を発症。治療を受けた病院から断酒会館を勧められ、妻と一緒に会館へ。「ひとりでは決して行かなかった」と言われる。最初は妻だけであったが娘も一緒に通ってくれるようになった。

「（断酒ができてるのは）家族がいたから、仲間がいたから今がある」。

現在は断酒会館のスタッフとして、アルコールで困っている本人や家族からの相談対応や仲間の会（居場所）に来る利用者の支援をしている。会館の仕事のない日にはデイサービスの送迎スタッフとしても働いている。

片山さんから

「飲酒をする人はさみしいと感じている人も多い。ひとりでは断酒をすることは難しい。ここ（断酒会館）には仲間がいる。一度足を運んでほしい。断酒をすると表情や身なりが変わっていく。（断酒会館のスタッフとして）変わっていくのを実感できるしやりがいがある。本当に断酒ができる人は利用者の30人にひとりかもしれないが、変わっていくことに関われるのはうれしい」とスタッフとしてがんばっている思いを話してくれる。





喜多友幸さん（70代）は断酒会館を利用することで、楽しみのある生活を送っている。

断酒会館を利用するきっかけは、アルコール依存症を心配する家族がいきいき支援センターに相談をしたこと。依存症に完治はないため、今も家族の協力を得て生活を続けている。

現在、喜多さんは、断酒会館の3階にある障害者の就労形態の一つである就労継続B型事業所「仲間の会 はばたき」の利用者として書類の整理から植木鉢の世話、畑仕事を積極的に行っている。

喜多さんから

「お酒を飲んでいたら、飲んでいるときは良いが、朝になると苦しかった。あのまま飲んでいたら死んでいたかもしれない。今も断酒会の活動に参加をしている。家族が協力してくれているからがんばれている。今はここ（断酒会館）に来ることが楽しい。みんな仲間。家でぼーっとしていたくない、体を動かしたい。ここ（断酒会館）が歩いて来られるところでもよかった。」喜多さんは笑顔で今の生活について話をしてくれた。



#### ★愛知県断酒会館：

アルコール問題で悩んでいる人たちが安心して暮らしていくために支援する「居場所」

#### <会館の機能>

- 酒害相談の場所（電話または来館）
- 例会（話し合い）としての場
- 仲間の会事業所（陽だまり・あゆみ・はばたき）

社会復帰に向けての居場所・生活リズムづくり・社会参加を通じて生きがいや意欲につながることを目指す場。

#### <問い合わせ>

NPO 法人 愛知県断酒連合会

457-0047 名古屋市南区城下町 1-12

愛知県断酒会館 1F（会館時間 1年365日、9時～17時・元日のみ13時から）

TEL 052-824-1567 FAX 052-824-7134

<https://aichi-danshu.jimdofree.com/>

■仲間の会事業所（会館時間 月～金 9時～17時）

TEL 052-821-0650（仲間の会 陽だまり）

<https://www.nakamanokai.com/>

#### 仲間の会事業所

陽だまり・あゆみ・はばたき



取材させていただき  
ありがとうございました！